

「活気づけ」 デブリーフィングのポイント シナリオの設計と技術チェックのポイント（流れに沿って2場面を比較して学ぶ）

流れ（実施事項）	シナリオ1 技術解説	シナリオ2 技術解説	メモ欄（学習支援者・観察者）
設定解説、配役解説 （下の太字は参加者に提示する枠組み）	場面1：《 当事者意識醸成 》①〈みなで/ともに/楽しくの浸透〉「意味・価値体得推進」 ②〈 ワレラゴト(我ら事)共有 〉「 地区リスク提示による気づき引出 」、無知&無関心から、知識↑&動機↑へ（私困ってない+どうしてやらなきゃならないの？から、何とかしなくちゃ！へ） ③重要度↑		1. グループ内討議や発表における内容の記述 2. 参加者が気づいていた項目にはチェック
1. 導入 アイスブレーキング 2. 目的・本時の目標・流れ説明 ☆《 機会・場設定 》 これは両シナリオ同じ 3. 地区の実態 提示、問題意識を高める 4. 住民の願いの確認 ☆4つの問いは両シナリオ同じ ①個の願いから②みな願いへ、③地域の強みを活かして、④みなで主体的に行動する方向へ	➤ 一方向の刺激（参加できない） ➤ 自分のペース（アイスブレーキングの欠落） ➤ 保健師による目的読上げ、参加なしの伝え方 ➤ 住民の無知を露呈するような流れ（学習意欲の減退） ➤ リスクのイメージ化支援不足（比較のない図表を提示し、他地区との比較や経年予測を見せていない） ➤ 住民の主体的思考の促進不足（全体ではなく数人に意見を聞き、みんなで考える手段をとっていない） ➤ 住民主体の問題認識の促進不足（保健師から問題や危機感を述べてしまう） ➤ そうなりたくないというネガティブな動機を醸成（ネガティブな具体例を保健師から提示し、住民の願いを問う）➡①みなで/ともに/楽しくの失敗 ➤ 願いの包括的収集に失敗（全体に問いかけ、自治会長のみが重い口を開き、みんなが同調）	➤ 双方向（参加を伴う） ➤ ①〈みなで/ともに/楽しくの浸透〉の支援（全員参加で楽しくを重視したアイスブレーキング） ➤ とともに在るパートナーとして保健師をアピール ➤ ②〈 ワレラゴト(我ら事)共有 〉、無知&無関心から、学習意欲↑・関心↑+①（レジメに伏字を用い参加者の関心・楽しさを高める） ➤ 全員参加・動きを伴う知識↑&動機↑の確認（みなで考えを出し合い、より多くの人に発言やジェスチャーをしてもらう工夫をしている） ➤ 知識・関心↑に向け、気づき促す資料を2段階で提示（視覚的な工夫で意図的に気づきを促進、他地区との比較、5年後・10年後の予測） ➤ ②住民自らの「何とかしなくちゃ」の表出を導く（小集団にイメージや感情共有、および分析をゆだねる） ➤ 理解したことや感情、思いを包括的に収集し（グループごとの発表）、全体で共有 ➤ 地域にとって重要なこと、みなで行動すべきことの確認、保健師の願いも伝える ➤ 同じ4つの問いだが、全員の意見を集約し確認、優先度確認、共有（1枚のボードに集約、統合・要約・まとめを保健師が担う） ➤ 自分・みんなの問題、自分達で何とかする、というポジティブヘルスの方向に全員が向かうように工夫（ハートの紙、風船のボード、各自がハートを貼って発表、参加者の手も口も体も動かす） ➤ 願いに書いた地域にするのは、住民のみなさん自身にかかっているという自覚や責任感を醸成	➤ 記入者（ ）

流れ（実施事項）	シナリオ1 技術解説	シナリオ2 技術解説	メモ欄（学習支援者・観察者）
	場面2：《やる気下支え》《発起アシスト》④目的・目標の共有から合意形成へ ⑤自分のこととして考えられない状況（だれかがやってくれたらいいのに）から、自分たちがやるしかない/我ら事・丸ごと・地域づくりへの「やる気点火」 ⑥優先度↑ 《元気バックアップ》⑦みなで/ともに/楽しく+「始動への元気増幅」支援 ⑧自己効力感↑、自信度↑		
5. 願いの実現に向けた動機づけと確認これからどうするかの話し合い開始	➤ 対話推進の失敗（動機づけに失敗したまま、グループワークを設定し、対話にならない） ➤ 目的3へと保健師主導で進める、目的1, 2が不十分なので参加者は、自分達の問題という意識にもならず、どうしたらいいのからない状況	➤ 目的3を通して住民の覚悟に働きかける ➤ スミレ地区にとって大事なことは、という投げかけ ➤ 保健師が問うことで、参加者から願いをかなえる取り組みについて意見が湧いてくる ➤ 場面1での動機づけや主体的な発表を経ているので、積極的になっている ➤ 保健師はまとめ役	➤
6. 活動目標（めざす成果）の共通認識	➤ グループワークで対話を経た目標設定を装うが、対話が成立していないため住民の「参加」「主体的行動」を伴う目標設定に至らない ➤ 結果、その場回避の回答のみ	➤ 板書と口頭読み上げにより目標の共通認識を語る ➤ 保健師はまとめと推進の役割に徹する（自分の意見や思いは述べず、住民から収集した内容の統合とまとめに徹する）	
7. 短期目標と活動計画	➤ 十分参加者の声を集めることなく保健師主導のまとめを保健師が語る ➤ 自治会長に負担をゆだねる形になり、みなで/ともに/楽しくからの主体的参加に失敗 ➤ 未来志向で実現可能な対話の推進に失敗	➤ 各自の行動計画の宣言をグループダイナミクスで支える ➤ 全員参加（グループで意見交換）の形態採用 ➤ 「できることをひとつだけ」とスモールステップ助言（頑張りすぎない、継続を意図した助言） ➤ 未来志向で実現可能な対話が推進された	
8. 役割確認と主体的参加 自分にもできそう・よさそう （自信・自己効力感）	➤ 地域の強み、資源が不明なまま ➤ 課題解決に向けた主体的な意識醸成と個々の具体的な行動に至らず	➤ グループメンバーの宣言をメンバーから発表することで住民同士の尊敬・信頼感を高め、行動開始へのエンパワメントを実現 ➤ 宣言により地域の強み、資源が具現化	➤
9. まとめ、始動へ	➤ 保健師を対等なパートナーと思う意識の醸成に失敗	➤ 住民主体の次の展開を確認し委ね継続を確実化 ➤ 保健師との対等なパートナーシップ醸成を意図した投げかけ	➤